

令和元年度第4回（通算第10回）三木市学校再編検討会議録（要旨）

日 時： 令和2年1月20日（月）午後7時～8時

場 所： 市役所5階 大会議室

出席者：

構 成 員 加治佐哲也 兵庫教育大学 学長
山下 晃一 神戸大学大学院 准教授
小山内政子 三木市区長協議会連合会 会長
神澤 廣美 三木市区長協議会連合会 理事
黒井 俊光 三木市連合PTA 元副会長
前田 信利 平田小学校 校長（小学校校長会）
野口 博史 緑が丘中学校 校長（中学校校長会）

事 務 局 西本則彦教育長
石田英之教育総務部長 奥村浩哉教育振興部長
五百蔵一也教育総務課長 坂田直裕学校教育課長
鍋島健一学校教育課副課長 山口正明学校教育課副課長
山本智康学校教育課主査 小柳陽学校教育課主査

傍聴人の数： 5人

1 開会（会長あいさつ）

通算第10回の三木市学校再編検討会議である。前回は8月22日だったので、少し期間が空いている。

前回は、本会として提言書を取りまとめた。教育委員会ではその提言を参考にして、10月3日に「学校再編に関する実施方針」を策定された。

その方針を受けて、志染・緑が丘中学校区及び吉川の小学校区で令和3年4月の統合に向けた準備作業が進んでいると聞いている。

8月に出した提言書の中では、星陽中学校の口吉川地区については、保護者や地域の方の意見を集約することに時間を要するため、審議を継続するというようになっていた。

8月以降、口吉川小学校のPTAが主体となり、意見交換会などを重ねていただいた。そして、このたび、保護者と地域の方がまとめられた意見及び要望を確認した。

本日は意見の集約にご尽力いただいた保護者及び地域の方からお話をお聞きした上で協議を行い、星陽中学校の口吉川地区について、学校再編検討会議としての方向性を出していきたいと考えている。

2 協議事項

- (1) 星陽中学校（口吉川地区）の学校再編について
（会長）

星陽中学校の口吉川地区の統合先について協議したい。まずは事務局から報告をお願いします。

(事務局)

協議に先立って、これまでの経緯等について簡単に振り返りをさせていただきたい。

まず、参考資料の3ページに、8月22日の学校再編検討会議で提出された提言書の抜粋を掲載している。

8月22日の提言では、「星陽中学校の『口吉川地区』は、吉川中学校との統合を当会として提示したが、保護者や地域の方の意見の集約に時間を要するため、附帯意見を付して、当会で審議を継続する。附帯意見としては、星陽中学校は、細川地区と口吉川地区の生徒で構成しているため、口吉川地区においては、統合時期を遅らせることがないよう、保護者及び地域の方による協議を早急に進められることを望むものである。」という内容だった。

次に、1ページに、10月3日付けで三木市教育委員会が作成した実施方針の抜粋を掲載している。

先ほどの提言の内容を受け、「星陽中学校の『口吉川地区』は、令和4年度の統合に向け、統合校を決定する。」として、統合については決定をした。

しかしながら、「統合校については、学校再編検討会議の提言を待つこととする。」ということとしていたため、今回の学校再編検討会議で審議いただき、提言をいただきたい。

その上で、三木市教育委員会で再度実施方針を決定する。

以上がここまでの経緯である。

(会長)

口吉川地区の「学校再編に係る意見・要望について」の内容は、すでに各委員に知っていただいていると思うが、保護者、地域の方からの思いを直接お聞きし、質疑応答を行いたいと思っている。

(地域の方)

はじめに、口吉川町の学校再編について、このような貴重な時間を私たちにいただいたことを、誠に感謝申し上げます。

これまでにどのような形で地域及び保護者の意見集約をしてきたのか、簡単に経緯を説明させていただきたいと思う。

まず、昨年7月末の地域説明会で、市教育委員会から吉川中学校と統合するという提言案の説明があり、保護者の中では、吉川中学校との統合を望む意見や、三木中学校との統合を望む意見など、いろいろな意見が出ていた状況だった。

その後、保護者と住民代表である区長協議会とで、どのような形で口吉川町の行き先を決めたらいいのかということ相談させていただいた。その際、区長協議会からは、「基本的には子を持つ親がしっかりと議論を進めてほしい。地域としては、その答えがどのような答えであったとしても、

保護者の考えを尊重したい。」と仰っていた。

したがって、口吉川小学校 PTA が中心となり、子を持つ親として未就学児の親も含めて、9月に保護者会を開催し、今回の問題について意見交換を行った。できるだけ多くの方に来ていただきたいと思ったので2日間にわたって開催した。

これまでのアンケートの結果では、三木中学校との統合を希望するか、吉川中学校との統合を希望するかというのは、おおよそ五分五分だったが、意見の中身を分析した方がいいと思ったので、「なぜ希望するのか」ということも、アンケート形式で確認した。

そこで浮かび上がってきたのが、当然子どものことを真剣に考えているので、やはり「日々の通学の負担が軽い方がいい」という理由であった。吉川中学校との統合を希望する方は、7割～8割くらいの方がそういう理由をお示しになった。三木中学校との統合を希望する方についても同じようなご意見で、「三木中学校の方が通学しやすい」、「生活圏が三木中学校側にある」といったご意見が同じ位の比率を占めていた。

三木中学校にしても吉川中学校にしても、どちらにしても、同じような理由で望まれているという傾向があったので、それを理由にどちらかを選ぶというのは、保護者の皆様としては消化できない部分も出てくるのではないかと考えていた。通学というのは、わが子のことを考えると切っても切り離せない問題である。しかし、中学校をどこにするのかというのは、口吉川町にとっても大きな問題になる。だから、わが子ことは考慮に入れないということではできないが、意見交換をする際には、できるだけ大きな視点で、口吉川町の全ての地区の子どもたちにとって、実際にどういう選択肢を残していけばいいのかということを考えてほしいということ、意見交換会でお集りいただいた保護者の皆様をお願いした。

また、学校の統合は将来にわたることであり、三木市の学校再編の会議の中でも、学校再編の形ができてくるのは10年、20年先と言われていた。これは本当に先の話なので、これから先の子どものことを頭に入れて、どちらがよいのかということを考えてほしいをお願いした。

さらに、学校というのは地域や町づくりにとって非常に大事な拠点でもあるので、拠点というものがどうあるべきなのかということも、区長協議会から保護者の方で考えてほしいということだった。つまり、町づくりという視点も含めて、我々の世代で考えてほしいということだったので、会の冒頭で説明し、そういう方向で会を進めていった。

皆様にはフリーに意見交換をしていただき、そこで出た意見は全てPTAの本部で集約した。それは、来ていなかった方も含めて皆様に見ていただいた。参加されたのは50人近くなので、口吉川町の保護者でいうと8割以上の方にご参加いただいたような会だった。

その上で、改めて皆様がどういう意思なのか確認させていただくことにした。口吉川町の意見が100対0になることは絶対にあり得ないということは皆様も分かっていたので、基本的にはみんな意見交換をした上で出た答えというのは、どういう結果になっても保護者は受け入れるという

ことを思っておいてほしいと保護者の皆様をお願いをした。

また、令和4年というスタートが決まっている中で、今、どちらの中学校と統合するのがよいのか長く議論してもおそらく答えが変わるわけではないので、基本的にはここで真剣に考えて出した答えは、お互いに尊重し合って、これから先、子どもたちのために何ができるのか、実際の準備に取りかかるべき時期が来ているということもお伝えした。

そして、少し時間が空いたのだが、11月初頭に、再度お集まりいただいた。その時に参加できない方には、事前に意思を確認させていただいたところ、49人の保護者の方が意思を表明された。そのうち、吉川中学校との統合を希望する方が17人、三木中学校との統合を希望する方が32人という結果になった。これまでどちらの学校と統合をすることを望むか意見が五分五分だった中での今回の結果であるので、これを皆様の意見として重く受け止めさせていただいた。

次に、区長に報告をし、ふれあいまちづくり協議会でも審議をしていただき、住民の皆様も含めて、今回出た意向を尊重していくという形で、口吉川町の中で話し合いをさせていただいた。その上で、三木中学校との統合を希望することが望ましいとして、要望書を提出させていただいた次第である。

(会長)

ご説明いただいたが、皆様いかがか。質問等はないか。

(委員)

一つだけお聞かせいただきたい。いろいろな視点からご意見を出されて、最終的に三木中学校との統合を希望するというご意見でまとまったことと理解して、私としても、本会としても、それを尊重していかないといけないと思っている。基本的に最初に話をされた通学のことが一番大きいのではないかと思うが、単純に通学を考えたとき、吉川中学校に近いのか、三木中学校に近いのかは地区によって変わると思うが、口吉川という地区全体を考えてどちらに近いのかと考えると、吉川中学校の方が近いのではないかと思う。しかし、子どもファーストの目線でいろいろと協議をして、遠い方の三木中学校が選ばれているのではないかと私は思う。それが逆転するような子どもファーストの目線とは、具体的にどんな意見、どんな考えがあったのかを教えてほしい。

(地域の方)

単純に距離を平均していけば、おそらく吉川中学校の方が近い人が数としては多いのかもしれないと思う。一人一人に聞いた訳ではないが、吉川中学校への通学に懸念を持たれていた方の意見の中には、一部の子が自転車通学になることが、7月の市教育委員会の説明の中にあっただが、県道は、朝、登校時間に、非常に大きなトラックがたくさん通っている。実際には、県道整備がほぼされていない道であるが、その道を小学校から上がったばかりの子どもたちが自転車で通学をして、吹き飛ばされてしまうのではないかと心配をされていた保護者が多かった。

また、路線バスの利便性で考えた時に、市教育委員会の説明では、夏休み等はスクールバスは出ないことになっていたもので、そうなったら路線バスで部活動へ行くことになるが、路線バスでは吉川中学校の方が少し行きにくい。便数であったり乗り継ぎであったり、路線バスのメリット、デメリットを考えた時には、三木中学校の方がよいという方もおられた。これだけが理由ということはないと思うが、その時に出た意見としてそういうものがあつた。

【意見聴取人退席】

(2) 提言内容について

(会長)

それでは、これから口吉川地区のことについて協議していきたいと思う。会長として提言書案を作成しているので、読み上げさせていただく。

星陽中学校「口吉川地区」の統合について、星陽中学校の「口吉川地区」は、令和元年6月25日付けで吉川中学校との統合を当会の案として提示しました。しかし、保護者や地域の方の意見は様々であり、集約に時間を要すると判断したため、8月22日付けの「提言書」では、星陽中学校の「口吉川地区」の統合校は示さず、審議を継続することとしました。

その後、口吉川地域において、意見交換会やアンケートによる意見聴取を実施し、令和元年12月13日付けで地域の総意として、「星陽中学校の統合先としては、三木中学校が望ましい。」という内容を盛り込んだ「学校再編に係る意見・要望」を三木市教育委員会に提出されました。

三木市学校再編検討会議は、保護者や地域の思いを尊重し、次のとおり提言します。

令和2年1月20日 三木市学校再編検討会議 会長 加治佐 哲也

ア 統合校

星陽中学校の「口吉川地区」は、三木中学校と統合する。

イ 統合時期

星陽中学校の統合は、令和4年度に行う。

星陽中学校の統合は、細川地区・口吉川地区とも令和4年度に三木中学校に統合するという提言書になる。

これで提言してよろしいか。

【異論なし】

(会長)

では、これを提言とする。市教育委員会には、この提言を参酌して実施方針を改めて決定してほしい。三木市として早く実施方針を決定し、統合準備委員会を立ち上げて、円滑な統合に向けた準備を進めていてもらいたいと思う。

今日も地域の方に来ていただいてご意見をうかがったところだが、皆様の意見を参考にさせていただきたいと思う。

本日をもって、現段階における学校再編検討会議の審議すべき内容についての協議は一旦終わりにしたい。

委員の任期は令和2年3月31日までとなっているので、その期日をもって三木市学校再編検討会議を解散することとしたいと思う。

3 報告事項（事務局）

- (1) 統合準備委員会の開催状況について
- (2) 小中一貫教育研究報告について

4 閉会（副会長あいさつ）

第10回を迎える学校再編検討会議もこれで解散ということになるが、学校をどうしていくのかというのは、今、日本全体が直面している大きな問題であり、多様な意見があって、どうするのがいいのか、正解が本当に分かりにくい問題である。

そんな中、口吉川町の皆様が一生懸命向き合っていていただき、先ほどご報告いただいたように、大変熱心に考えていただき、心から深く敬意を表したいと思う。

また学校再編検討会議の委員の皆様も最後まで熱心にご審議いただき、感謝申し上げます。

委員の方から、子ども一人一人の気持ちを大切に進めてほしいという意見があり、事務局に聞いたところでは、スクールカウンセラーの力もいただきながら、各学校で子どもたちに配慮して進めてくださっているということなので、是非そういう方向でこれからも進めていただきたいと思います。

また、今ご報告いただいたように、小中一貫教育というのが日本全体が進んでいく教育の方向にもなっている。我々が調査研究をするようお願いしたところ、直ちに調査に出向いていただき、非常に充実したご報告をいただき、それ以外のところでも事務局の皆様のご尽力に深く御礼申し上げます。

先ほど申し上げたように、正解というのは一体何なのか分からないが、私たちが選んだこの道が正解になるように、今後三木の大人たちが何をやっていくべきか、そういうことが非常に問われることになるのではないかと思います。

これまでの私たちの話し合いが、三木の各地でいろんな形で努力されてい

る方々を後押しできるようなものになることをお祈りして、本日の閉会の挨拶とさせていただきますと思う。

(会長)

ぜひ円滑に進んで、一日も早く子どもたちのための新しい形ができることを祈念している。

本当に、これまでの協議について御礼申し上げたい。